

平成27年度病虫害発生予察 特殊報第5号

平成28年1月4日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

1 害虫名 シソサビダニ (*Shevtchenkella* sp.)

2 発生作物 シソ (オオバ)

3 発生経過

平成25年8月9日に大分県内のシソ圃場において葉にモザイク症状を呈する株が確認され、シソモザイク病であることが確認された (平成26年12月特殊報)。

平成27年8月にシソモザイク病発生圃場においてフシダニ類が確認されたため、法政大学生命学部にて同定を依頼したところ、シソサビダニであることが確認された。

4 県内の発生状況

1) 初確認年月日：平成27年8月31日

2) 発生確認地域：大分県中部

3) 発生確認面積：20a

5 発生生態と被害状況

1) 形態

成虫は体長約0.15mmの紡錘形で淡黄色を呈する (写真1)。肉眼での観察は困難である。

2) 生態

本種は、平成25年8月に愛知県で、平成26年3月に高知県で確認された種と同種であり、シソに寄生することが判明しているが、その他の寄主植物や発生生態は不明である。現在、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構などと協力して、本種の発生生態の解明と防除体系の確立に向けた研究が行われている。

3) 被害状況

主に生長点に近い葉や茎を加害する。初期は葉柄の基部に近い部分の表面が、加害が進むと葉や生長点、茎の表面が褐色のさび症状を呈する。また、シソモザイク病 (仮称) の原因となるシソモザイクウイルス (PMoV) を媒介するため (写真2)、著しい被害が生じる場合がある。

6 国内での発生状況

本種は国内では、高知県、愛知県において発生が確認されている (平成26年8月高知県特殊報、平成27年12月愛知県特殊報)。

7 防除対策

- (1) 本種の防除対策は明らかでない。シソのサビダニを対象に農薬登録されているコロマイト乳剤および気門封鎖剤で防除を行う。
- (2) シソモザイク病(仮称)の発病株は見つけ次第抜き取り、埋却するなど適切に処理する。株を抜き取る際には、事前にビニル袋をかぶせるなど、媒介種であるシソサビダニが散逸しないよう注意する。

(参考文献)

1. 上遠野富士夫・岸本秀成 (2013) : 日本の農作物から新たに発見されたフシダニ2種について. 第57回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集 57 : 78
2. 高知県病害虫防除所 (2014) 平成26年度病害虫発生予察特殊報第1号. シソサビダニ
3. 愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室(2015)平成27年度病害虫発生予察特殊報第1号. シソサビダニ



写真1 シソサビダニ (左 : 生体、右 : 標本)



写真2 シソモザイク病 (仮称) 被害株